令和7年第1回嬉野市議会定例会会議録

招 集 年 月 日	令和7年2月28日					
招 集 場 所	嬉野市議会議場					
開 閉 会 日 時 及 び 宣 告	開会	令和7年2月28日 午前10時00分			議 長 辻 浩 一	
	散会	令和7年2月28日 午前11時21分			議 長 辻 浩 一	
応（不応）招 議員及び出席 並びに欠席議員	議席 番号	氏 名	出欠	議席 番号	氏 名	出欠
	1番	水 山 洋 輔	出	9番	宮 崎 良 平	出
	2番	大 串 友 則	出	10番	川 内 聖 二	出
	3番	古 川 英 子	出	11番	増 田 朝 子	出
	4番	阿 部 愛 子	出	12番	森 田 明 彦	出
	5番	山 口 卓 也	出	13番	芦 塚 典 子	出
	6番	諸 上 栄 大	出	14番	田 中 政 司	出
	7番	諸 井 義 人	出	15番	梶 原 睦 也	出
	8番	山 口 虎 太 郎	出	16番	辻 浩 一	出

地方自治法 第121条の規定 により説明の ため議会に出席 した者の職氏名	市長	村上大祐	健康づくり課長	
	副市長	早瀬宏範	統括保健師	
	教育長	杉崎士郎	子育て未来課長	
	行政経営部長	永江松吾	福祉課長	
	総合戦略推進部長	小野原博	農業政策課長	
	市民福祉部長	小池和彦	茶業振興課長	
	産業振興部長	井上章	観光商工課長	
	建設部長	馬場敏和	農林整備課長	
	教育部長		建設課長	
	観光戦略統括監	中野幸史	新幹線・まちづくり課長	
	総務・防災課長兼 選挙管理委員会事務局長	太田長寿	環境下水道課長	
	財政課長	中村忠太郎	教育総務課長	
	税務課長		学校教育課長	
	企画政策課長		会計管理者兼 会計課長	
	広報・広聴課長		監査委員事務局長	永松弘利
	文化・スポーツ振興課長		農業委員会事務局長	
	SAGA2024 推進課長		代表監査委員	
	市民課長			
	本会議に職務 のため出席した 者の職氏名	議会事務局長	筒井八重美	

令和7年第1回嬉野市議会定例会議事日程

令和7年2月28日（金）

本会議第1日目

午前10時 開 議

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 発議第1号 嬉野市議会の個人情報保護に関する条例の一部を改正する条例
について
- 日程第4 諸般の報告
報告第1号 専決処分（第11号）の報告について
報告第2号 議決事件に該当しない契約の報告について
- 日程第5 議案第1号 専決処分（第1号）の承認を求めることについて
- 日程第6 議案第2号 嬉野市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める
条例について
- 日程第7 議案第3号 地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に
関する条例について
- 日程第8 議案第4号 刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理等に関
する条例について
- 日程第9 議案第5号 嬉野市防犯設備の設置及び管理に関する条例及び嬉野市債権管理
条例の一部を改正する条例について
- 日程第10 議案第6号 嬉野市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条
例について
- 日程第11 議案第7号 嬉野市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する
条例及び嬉野市消防団条例の一部を改正する条例について
- 日程第12 議案第8号 嬉野市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例について
- 日程第13 議案第9号 嬉野市税条例の一部を改正する条例について
- 日程第14 議案第10号 嬉野市営駐車場条例の一部を改正する条例について
- 日程第15 議案第11号 嬉野市体育施設条例の一部を改正する条例について
- 日程第16 議案第12号 嬉野市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条
例の一部を改正する条例について
- 日程第17 議案第13号 嬉野市いきいきデイサービスセンター条例の一部を改正する条例
について
- 日程第18 議案第14号 嬉野市企業誘致ビル条例の一部を改正する条例について
- 日程第19 議案第15号 嬉野市志田焼の里博物館条例の一部を改正する条例について

日程第20	議案第16号	嬉野市非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例について
日程第21	議案第17号	嬉野市特別会計条例を廃止する条例について
日程第22	議案第18号	市道路線の廃止について
日程第23	議案第19号	市道路線の認定について
日程第24	議案第20号	令和6年度嬉野市一般会計補正予算（第8号）
日程第25	議案第21号	令和6年度嬉野市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）
日程第26	議案第22号	令和6年度嬉野市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）
日程第27	議案第23号	令和6年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野温泉駅周辺土地区画整理事業費特別会計補正予算（第2号）
日程第28	議案第24号	令和6年度嬉野市下水道事業会計補正予算（第4号）
日程第29	議案第25号	令和7年度嬉野市一般会計予算
日程第30	議案第26号	令和7年度嬉野市国民健康保険特別会計予算
日程第31	議案第27号	令和7年度嬉野市後期高齢者医療特別会計予算
日程第32	議案第28号	令和7年度嬉野市下水道事業会計予算
日程第33	諮問第1号	人権擁護委員候補者の推薦について
日程第34	諮問第2号	人権擁護委員候補者の推薦について
日程第35	委員長報告	
	総務企画常任委員会	ふるさと納税等について
	産業建設常任委員会	有機農業について
	議会活性化特別委員会	議会活性化を図るための調査研究
	議会ICT化の推進に係る特別委員会	議会ICT化の推進に係る調査研究

午前10時 開会

○議長（辻 浩一君）

本日は令和7年第1回嬉野市議会定例会に御出席いただきまして御苦労さまです。

本日は全員出席であります。定足数に達しておりますので、ただいまから令和7年第1回嬉野市議会定例会を開会いたします。

本定例会の議会運営につきましては、2月26日に議会運営委員会が開催されました。その結果について報告を求めます。梶原睦也議会運営委員会委員長。

○議会運営委員会委員長（梶原睦也君）

皆さんおはようございます。先日、2月26日、議会運営委員会を開催いたしまして、今定例会の議会運営に関し協議を行いました。

ただいまから会期日程案について報告をいたします。

お手元に配付の令和7年第1回嬉野市議会定例会会議日程案を御覧ください。

会期は本日2月28日から3月21日までの22日間であります。

2月28日、開会、会議録署名議員の指名、会期の決定、諸般の報告、議案一括上程、提案理由の説明、委員長報告、本会議終了後に議案の詳細説明、合同常任委員会を開催いたします。

3月3日から6日、常任委員会。

3月10日から12日まで議案質疑。

3月13日、17日及び18日が一般質問。今定例会においては14名の議員から通告があつておりますので、13日5名、17日5名、18日4名の配分で行いたいと思っております。

3月21日、討論・採決、閉会。

開議時間については、13日、17日及び18日まで3日間の一般質問は9時半から行いたいと思っております。それ以外は全て10時からの開議時間で行います。

以上、今定例会の会期日程案について御報告をさせていただきます。

○議長（辻 浩一君）

議会運営につきましては、ただいま議会運営委員会委員長から報告のあつたとおりであります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑なしと認めます。

これで議会運営委員会、議会運営についての報告を終わります。

それでは、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程につきましては、お手元に配付のとおりであります。

日程第1．本定例会の会議録署名議員の指名を行います。

嬉野市議会会議規則第85条の規定により、会議録署名議員に、議席番号4番阿部愛子議員、議席番号5番山口卓也議員、議席番号6番諸上栄大議員を指名いたします。

日程第2．嬉野市議会会議規則第4条の規定により、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。本定例会の会期は本日から3月21日までの22日間にしたいと思います。御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。本定例会の会期は、本日から3月21日までの22日間に決定いたしました。

なお、会期中の会議予定につきましては、お手元に配付しております会期日程のとおりであります。御了承ください。

次に、日程第3．発議第1号 嬉野市議会の個人情報の保護に関する条例の一部を改正す

る条例についてを議題といたします。

朗読を省略して提案理由の説明を求めます。提出者、梶原睦也議会運営委員会委員長。

○議会運営委員会委員長（梶原睦也君）

発議第1号

嬉野市議会の個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例について

このことについて、別紙のとおり地方自治法第109条第6項及び嬉野市議会会議規則第13条第2項の規定により提出する。

令和7年2月28日提出

嬉野市議会議長 辻 浩一様

提出者 嬉野市議会運営委員会

委員長 梶原 睦也

理由 行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部改正に伴い、条例の一部を改正する必要がある。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

これで提案理由の説明を終わります。

お諮りいたします。発議第1号につきましては、委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、発議第1号は委員会付託を省略することに決定をいたしました。

次に、議案質疑を行います。発議第1号について質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑なしと認めます。これで発議第1号についての質疑を終わります。

次に、発議第1号 嬉野市議会の個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例についての討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

発議第1号について採決をいたします。

発議第1号を原案のとおり決定することについて、賛否の投票を求めます。それでは投票してください。

〔押しボタン式投票〕

投票を締切ります。全員賛成であります。したがって、発議第1号 嬉野市議会の個人情報保護に関する条例の一部を改正する条例については可決をいたしました。

日程第4. 諸般の報告を行います。

本日までに提出されました令和7年陳情第1号から陳情第5号につきましては、お手元に配付しております陳情文書表のとおりであります。

次に、報告第1号 専決処分(第11号)の報告について及び報告第2号 議決事件に該当しない契約の報告についての2件の報告につきましてもお手元に配付しておりますので、それをもって報告といたします。

これで諸般の報告を終わります。

日程第5. 議案第1号 専決処分(第1号)の承認を求めることについてから、日程第32. 議案第28号 令和7年度嬉野市下水道事業会計予算までの28件の議案並びに日程第33. 諮問第1号及び日程第34. 諮問第2号の人権擁護委員候補者の推薦についての2件の計30件を一括して議題といたします。

朗読を省略いたしまして、提案理由の説明を求めます。市長。

○市長(村上大祐君)

皆様おはようございます。それでは、令和7年第1回嬉野市議会定例会の開会に当たりまして、日頃の議員の皆様様の御活躍に敬意と感謝を申し上げたいと思います。

1月23日に嬉野市役所新庁舎の起工式、安全祈願祭が執り行われ、庁舎建設プロジェクトが大きく動き出しました。さきの議会でも述べたとおり、庁舎建設は単なる箱物の更新ではありません。新庁舎移行をきっかけに、デジタル時代を象徴する業務改革を劇的に進めていく合図となる号砲であります。職員の総力を結集して、新しい市役所像を創り上げてまいります。

こうした中、総務省公募事業の「令和6年度自治体フロントヤード改革モデルプロジェクト」の採択を受けることができました。住民と行政の接点である「フロントヤード」において、住民の利便性向上を官民挙げて実現をするもので、申請手続等の電話窓口として総合コールセンターを設置し、サービスの質向上と業務効率改善の両立を図る「コールセンター導入業務」と、おくやみ手続の一元化やマイナンバーカードを活用した「書かない窓口」実現などに挑戦する「フロントヤード等改革事業」を、新年度予算に計上しております。予算総額としては1億円超となりますが、国費による補助率は10分の10ということもあって、思い切った改革が可能となります。このチャンスを最大限生かして、今後の自治体窓口の範となるモデル構築に邁進いたします。

あわせて、塩田庁舎の利活用も本格的な検討に入ります。庁舎移転後に市民の利便性低下を招くことのないよう、オンラインによるリモート窓口や熟練の職員による相談対応・申請支援で、デジタルを苦手とする方も含めて、誰一人取り残さない窓口サービスを実現します。

また、庁舎及び周辺施設を最大限活用した新しいまちづくりの核としての機能を重視した攻めの姿勢も肝要かと存じます。近年注目が集まっている塩田津や川並みとの連携、図書館歴史資料館の活用など、今後は利活用検討委員会と協議を重ねつつ、構想の具体化を図ります。

西九州新幹線を生かしたまちづくりもさらに加速させていきます。JR九州がこのほど発表した、3月15日改正の新ダイヤにおいて、朝の通勤時間帯の7時10分発長崎行き「かもめ1号」が新たに停車することとなりました。議会、商工会、観光協会、旅館組合の皆様と幾度となく要望に赴いて実現に至ったということで、関係する全ての皆様に感謝を申し上げます。これにより、嬉野市内はもとより、鹿島市や長崎県東彼3町など、近隣市町にも嬉野温泉駅利用をアピールしてまいります。全線フル規格による整備を見据えて、さらなる有利ダイヤの獲得に尽力する所存です。

また、協議が停滞している武雄温泉―博多間の整備については、佐賀県の負担額が過大となる懸念に最大限配慮しつつも、地域経済効果を最大化する全線フル規格での整備を強く求めてまいります。

なお、12月議会において地元高校生の定期券購入補助制度の継続を求める陳情を議会のほうでも全会一致の可決をいただきましたので、新年度一般会計の予算に関連予算を計上しております。

嬉野温泉の温泉資源保護の取組についても御報告をいたします。

市が設置をしておりますモニタリングシステムにおいて、嬉野温泉の源泉水位が全体的に低下が見られた令和4年の夏頃から、源泉所有者との協議を重ね、対策を講じてまいりました。これにより、使用する湯量の削減に一定の成果を上げたとはいうものの、限りある資源であるという認識に立てば、さらに抜本的な対策が必要であると考えております。

あわせて、温泉法上の権限を有する佐賀県や温泉研究の専門家とも連携し、温泉資源の保護について新たなルールづくりを関係者と共に検討してまいります。また、本年度実施した温泉配湯管現状調査を踏まえ、所有者に適切な管理を促しているところでもございます。

1月、2月と気温が低くなり、連休や海外の大型休暇等で多くの観光客の来訪がありましたことから、佐賀県や源泉所有者とも協議を重ね、昨年の最低水位を下回った場合には、直ちに採取制限命令を行うことを確認した上で、本市議会の議員全員協議会でも報告をさせていただいたとおりでございます。

幸いにして制限命令の発動には至らず、水位はやや持ち直して小康状態を保っております。大口の源泉所有者による使用量削減の取組や、嬉野温泉旅館組合で深夜帯の客室風呂の使用制限など、自主的な対策を講じていただいたことも功を奏したのではないかと考えております。しかしながら予断は許されない状況でありますので、引き続き市民の皆様や観光客にも御心配をおかけすることのないよう、温泉資源保護の取組を進めてまいります。

それではこれより、今議会に提出をいたしました議案等につきましてその概要を御説明いたします。

今定例会に提出いたします案件は、報告2件、専決処分の承認を求めるもの1件、条例の制定3件、条例の一部改正12件、条例の廃止1件、市道の認定等2件、令和6年度の補正予算5件、令和7年度当初予算4件、人事案件2件の全部で32件について報告し、また審議をお願いするものでございます。

まず、議案第1号 専決処分（第1号）の承認を求めることについては、令和7年1月22日付、令和6年度嬉野市一般会計補正予算（第7号）の専決処分に関するものでございます。

本補正は、令和6年11月22日に閣議決定をされた「国民の安心・安全と持続的な成長に向けた総合経済対策」に基づき、物価高の影響を受ける低所得者に対し支援金を支給するものです。また、生活保護費のうち、医療扶助費が不足する見込みですので、併せて歳入歳出にそれぞれ1億9,560万1,000円を追加し、補正後の予算総額を227億8,266万8,000円とするものでございます。

低所得者支援金事業の内容といたしましては、令和6年度の住民税が非課税となる世帯に対し、1世帯当たり3万円を支給する「非課税世帯臨時給付金」及び非課税世帯臨時給付金の対象者のうち、18歳以下の子どもがいる世帯に対しては、子ども1人当たり2万円を加算して支給する「こども加算臨時給付金」を、事務費も含めて計上しております。

なお、この支援金は、令和7年度に給付する予定でございますので、全額を明許繰越とするための補正も行っております。

続きまして、条例の制定について御説明をいたします。

まず、議案第2号 嬉野市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例については、乳児等通園支援事業を実施するに当たり、児童福祉法に基づく乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定めるものでございます。

次に、議案第3号 地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例については、3本の関係条例につき、地方自治法改正に伴う条ずれを訂正するものであります。

次に、議案第4号 刑法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理等に関する条例については、令和7年6月1日から懲役と禁錮が拘禁刑に一本化されることに伴い、7本の関係条例につき条文を改正するものでございます。

続きまして、条例の一部改正について御説明をいたします。

議案第5号 嬉野市防犯設備の設置及び管理に関する条例及び嬉野市債権管理条例の一部を改正する条例については、個人情報の保護に関する法律の改正に伴い、嬉野市個人情報保護条例を廃止したことに伴い、2本の関係条例につき条文を改正するものでございます。

次に、議案第6号 嬉野市職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例に

については、佐賀県人事委員会の勧告に基づき、嬉野市職員について休暇取得事由の拡大等、所要の改正を行うものです。

次に、議案第7号 嬉野市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例及び嬉野市消防団条例の一部を改正する条例については、嬉野市消防団の組織再編を行うとともに、消防団員の処遇改善を図るため、2本の関係条例を改正するものです。

次に、議案第8号 嬉野市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例については、佐賀県人事委員会の勧告に基づき、嬉野市職員について給与改定等を行うため、4本の関係条例を改正するものでございます。

次に、議案第9号 嬉野市税条例の一部を改正する条例については、入湯税の改正に伴い、2本の関係条例を改正するものです。

次に、議案第10号 嬉野市営駐車場の条例の一部を改正する条例については、地方自治法の規定による指定管理者に、市営駐車場の管理を行わせることを可能とするため、条例を改正するものです。

次に、議案第11号 嬉野市体育施設条例の一部を改正する条例については、嬉野ゲートボール場を廃止することに伴い、条例を改正するものです。

次に、議案第12号 嬉野市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例については、内閣府令の施行に伴い、条例を改正するものです。

次に、議案第13号 嬉野市いきいきデイサービスセンターの条例の一部を改正する条例については、いきいきデイサービスセンターの使用料を改定するため、条例を改正するものです。

次に、議案第14号 嬉野市企業誘致ビル条例の一部を改正する条例については、換地処分に伴う所在地の変更に伴い、条例を改正するものです。

次に、議案第15号 嬉野市志田焼の里博物館条例の一部を改正する条例については、志田焼の里博物館の使用料を改定するため、条例を改正するものです。

次に、議案第16号 嬉野市非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例については、消防団員等公務災害補償等責任共済等に関する法律施行令の改正に伴い、条例を改正するものでございます。

続きまして、条例の廃止でございます。

議案第17号 嬉野市特別会計条例を廃止する条例については、嬉野温泉駅周辺土地区画整理事業が実質的に完了したことに伴い、特別会計の設置が不要となったため、現行条例を廃止するものであります。

次に、議案第18号 市道路線の廃止については、道路法第10条第3項の規定により、また、議案第19号 市道路線の認定については、道路法第8条第2項の規定により議会の議決を求めるものであります。

続きまして、議案第20号から議案第23号は令和6年度嬉野市一般会計、特別会計及び公営企業会計の補正予算に関するものでございます。

まず、議案第20号 令和6年度嬉野市一般会計補正予算（第8号）について御説明をいたします。

歳入歳出それぞれから10億4,646万5,000円を減額し、補正後の予算総額を217億3,620万3,000円とするものです。

歳入予算につきましては、市税、地方譲与税、各種交付金、地方交付税の収入見込みによる補正、国県支出金については、事業費の確定及び確定見込みによる財源補正、寄附金については、ふるさと応援寄附金の減額補正、そのほか国民健康保険特別会計からの法定外繰入金金の返還金、新庁舎建設事業の財源補正に伴う公共施設建設基金並びに合併振興基金からの繰入金の補正が主なものとなっております。

なお、歳入歳出に所要額を計上した結果、財源調整としての財政調整基金からの繰入金は7億6,500万1,000円を減額しております。

歳出予算につきましては、普通交付税の再算定により措置された臨時財政対策債償還基金費の減債基金の積立金として4,330万1,000円、実績見込みの増加に伴う認定こども園等施設型給付費に3,372万6,000円、保育所施設型給付費に1,378万8,000円、国の補正予算で措置された事業も含め、「農村地域防災減災事業」に2,800万円、そのほか事業費の決算見込みなどによる補正を行っております。

また、継続費の変更補正、年度内に完了が見込めない事業を翌年度に繰り越すための繰越明許費の補正及び事業費の変更に伴う地方債発行限度額の補正をそれぞれ計上しております。

次に、議案第21号 令和6年度嬉野市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）でございます。事務処理標準システム導入業務の事業費の確定による補正、国民健康保険基金から以前に一般会計より法定外の繰入れを行っていた分の一部を、一般会計に返還するなどの補正を行っております。

次に、議案第22号 令和6年度嬉野市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）でございます。後期高齢者医療広域連合への納付金の補正を行っております。

次に、議案第23号 令和6年度嬉野市嬉野都市計画事業嬉野温泉駅周辺土地区画整理事業費特別会計補正予算（第2号）でございます。保留地の売払収入を計上し、一般会計からの繰入金を減額する補正を行っております。

次に、議案第24号 令和6年度嬉野市下水道事業会計補正予算（第4号）でございます。収益的収入に809万円を追加し、補正後の総額を8億2,750万円とし、収益的支出に133万円を追加し、補正後の総額を8億1,221万2,000円とするものです。

資本的収入については、5,202万2,000円を追加し、補正後の総額を4億8,117万6,000円とし、資本的支出は5,380万円を追加し、補正後の総額を6億3,157万5,000円とするものです。

主な内訳といたしましては、農業集落排水機器更新設計及び工事に係る経費について増額をするものでございます。

続きまして、議案第25号から議案第28号は、令和7年度各会計の当初予算に関するものでございます。

まず、議案第25号 令和7年度嬉野市一般会計予算について御説明をいたします。

予算総額は210億円となっており、当初予算といたしましては、合併以降、過去最大となった前年度より2億700万円、率にして1%の減額となっておりますが、前年度に引き続き200億円を超える規模となっております。

減額の主な要因といたしましては、新庁舎整備事業のうち、令和7年度分の事業費やふるさと応援寄附金、令和6年度に開催された国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の事業費などの減額によるものです。一方で新庁舎完成を控え、窓口業務の改革や新ネットワークを構築するための事業費、また、国の子育て政策の拡充に伴う児童手当の支給事業、大草野小学校の長寿命化改良事業などが増額となっております。

それでは、歳入予算に関し、主な内容について御説明をいたします。

まず、市税ですが、個人市民税は、令和6年度に定額減税が実施されたことにより、減税分を減額して予算計上しておりましたが、令和7年度は約1億円の増で、定額減税前の決算額と同等の収入を見込んだ予算となっております。また、固定資産税は、令和6年度課税において新幹線関係の設備及び駅周辺施設などを精査したことによる増収でございます。市税総額では、前年度より1億7,215万5,000円、6.6%増の28億24万5,000円ということになっております。

普通交付税は地方財政計画において、自治体施設の光熱費やサービス・施設管理費等の増加を踏まえた額が一般行政経費に加算されたことなどにより、令和6年度予算額より1億円増の43億円、寄附金のうち「ふるさと応援寄附金」は令和6年度の実績見込みにより7億円減の23億円、また、繰入金のうち財源調整のため財政調整基金の繰入金は5,103万4,000円減の12億6,100万1,000円、新庁舎建設財源としての公共施設建設基金繰入金は5億6,600万円を計上しております。

市債は令和6年度に新庁舎建設財源として発行した合併特例債の減額が主な要因となり、前年度より2億460万円減の16億3,390万円を発行する予定であります。

なお、令和7年度市債残高は4億9,798万5,000円増加し、106億2,909万2,000円となる見込みとなっております。

続きまして、歳出予算の御説明をいたします。まず、「市民の暮らしを守る」事業といたしまして、新庁舎の供用開始に合わせ、防災行政無線の機器を整備更新する「防災行政無線整備事業」に7,146万円、新庁舎完成後の災害発生時に使用する映像表示システムを整備するための「新庁舎災害対策室映像表示システム整備事業」に1,342万円、前年度に引き続き

新幹線を活用した通勤や通学を進めることによる移住・定住人口増加を目的とした「新幹線通勤通学定期購入補助金」に1,000万円、不動山地区、下野、下吉田地区の乗合タクシー導入に向けた「実証運行事業」に、合計で301万4,000円などを計上しております。

次に、「人や産業、地域が輝く」事業といたしまして、プロスポーツチームの競技観戦やトップアスリートとの競技体験など、市民参加型の交流イベントを実施する「プロスポーツ交流事業」に115万4,000円、新規就農者のハウス施設整備費用など、初期投資の負担軽減を目的とした「ハウス団地整備事業」に5,239万6,000円、若手職人の育成、工芸家・アーティスト移住促進事業を行う「肥前吉田焼産地再生チャレンジ推進協議会」への負担金として500万円、「LCA国際小学校」をモデルに、当市の地域資源を体験できるツアーを造成・検証し、新たな販路開拓を行う「観光魅力向上事業」に650万円などを計上しております。次に、「市民サービスが変わる」事業といたしましては、問合せ窓口の一元化、一時対応完結率の向上、休日の電話対応における住民サービス向上を図るために、総合コールセンターを設置する「コールセンター導入業務」に2,387万円、行政文書情報のデジタル化の推進を目的とした「文書電子化等試行調査業務」に418万円、「書かない窓口」「回らない窓口」を実現するシステムの構築など「フロントヤード等改革事業」に合計で9,127万円、令和8年度策定予定の第3次総合計画・総合戦略人口ビジョン策定業務」に1,290万円などを計上しております。

そのほか、大草野小学校の長寿命工事化に伴う「放課後児童クラブ整備事業」に2,393万6,000円、学校給食の副食費補助を行う「うれしの産うまかもん給食支援事業」では、主食費に対しての補助を追加し1,449万7,000円、令和8年度全国お茶まつり及び全国茶品評会に向けた「全国お茶まつり嬉野市準備委員会」の補助金として500万円、旧嬉野医療センター跡地における観光・まちづくり拠点としての利活用を検討する「立地適正化計画改定業務」に1,200万円、大草野小学校の「学校施設長寿命化改良事業」に3億9,281万1,000円、嬉野小学校の学校施設バリアフリー化改修事業に5,633万2,000円、小・中学校での外国人講師とのオンライン英会話を実施する「英語活動支援事業」に2,004万5,000円、安全・安心な給食を提供するために調理環境を整備する「給食センター空調設備整備事業」に1億4,698万7,000円、「市道内野山木場線地すべり災害復旧事業」に2億9,300万円を計上しております。なお、「庁舎整備関連事業」では、本年度14億2,932万4,000円を計上し、建設整備を進める予定でございます。

以上、申しあげました事業のほかにも各種事業に取り組み、市民生活のさらなる向上を図るべく努力をしております。

また、継続費の総額及び年割額、債務負担の事項、期間及び限定額、本年度事業の財源として発行する地方債の目的、限度額を計上しております。

次に、議案第26号 国民健康保険特別会計予算でございます。予算総額は35億7,225万

8,000円となり、前年度当初予算と比較して、7,861万6,000円、率にして2.2%の減額となっております。保険給付費などの減少が主な原因でございます。

次に、議案第27号 後期高齢者医療特別会計予算でございます。予算総額は、4億9,566万円となっております。前年度当初予算と比較して3,098万1,000円、率にして6.7%の増額となっております。医療費の増加に伴う、後期高齢者医療広域連合納付金の増加が主な要因でございます。

次に、議案第28号 令和7年度嬉野市下水道事業会計予算でございます。

収益的収入は、前年当初予算比で3.9%増の8億5,391万6,000円、収益的支出は前年度の当初予算比で2.6%増の8億3,585万1,000円を計上し、資本的収入は前年度比5.1%減の4億5,537万7,000円、資本的支出は前年度比0.4%減の6億2,483万9,000円を計上するものです。

公共下水道事業及び農業集落排水事業については、維持管理費に係る機器更新事業を計画しており、市営浄化槽事業は60基の新設を計画しております。

続きまして、諮問第1号の人事案件は、人権擁護委員に大曲康智氏を、諮問第2号は、江口知佐子氏を同じく人権擁護委員に推薦したいので、議会の意見を求めるものでございます。

以上で本議会に提案をいたしました議案につきまして、概要説明を終わりますが、各議案の詳細な内容については、担当部長及び担当課長からいたしますので、何とぞ慎重な審議をお願い申し上げます。

なお、本会期中に追加議案の提案を予定しておりますので、あらかじめ御了承をいただきたいと思っております。

最後になりますが、今議会では14名の議員の皆様より一般質問をお受けしておりますので、お答えをしたいというふうに思っております。よろしくようお願い申し上げます。提案理由の説明とさせていただきますと思います。

○議長（辻 浩一君）

これで提案理由の説明を終わります。

お諮りいたします。議案第1号から諮問第2号までの30件につきましては、委員会付託を省略したいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、議案第1号から諮問第2号までの30件につきましては、委員会付託を省略することに決定をいたしました。

日程第35. 委員長報告を議題といたします。

閉会中、総務企画常任委員会に付託しておりました調査事件につきまして、委員長に報告を求めます。

総務企画常任委員会の付託事件、ふるさと納税等についての報告を求めます。山口卓也総務企画常任委員会委員長。

○総務企画常任委員会委員長（山口卓也君）

それでは、総務企画常任委員会の報告を行います。

嬉野市議会議長、辻浩一様。

総務企画常任委員会委員長、山口卓也です。

令和6年第4回嬉野市議会定例会において付託された次の事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則第107条の規定により報告いたします。

付託事件名、ふるさと納税等についてです。

調査理由。ふるさと納税は、地場産業の振興や雇用の確保など地方経済に大きく貢献する制度であることから、昨今のふるさと納税の傾向や実際の現場の状況・意見等を把握するために、本市のふるさと納税運営業務を委託する企業を訪問し調査を行いました。

調査概要、企業訪問、ふるさと納税等について。

調査日、令和7年1月16日。

調査場所は、長崎県波佐見町にある株式会社スチームシップ波佐見ポルテです。

対応者は代表取締役社長の藤山雷太氏ほか2名です。

調査の内容について、見出しを述べまして、中身については御一読願いたいと思います。

1、会社概要について、2、雇用状況について、3、ふるさと納税の傾向等について、4、嬉野市のふるさと納税業務への支援状況と改善点等について、5、ふるさと納税制度への改善要望等についての調査を行っております。

最後に、委員会の意見を申し上げます。

訪問させていただいたスチームシップ本社は、リノベーションされたおしゃれな雰囲気のおフィスで、若い従業員の方々がラフな格好で自然体で働かれており、明るく生き生きとした印象を受けた。創業からこれまでに急成長を果たされているが、それを支える成長戦略とバイタリティ、土台となる企業理念に裏づけされた成長だと感じられました。地方で若者の働く場を創出し、地方経済を活性化させるという地方創生において最も重要な視点を企業理念として掲げられ、体現されていることに感服するところであります。

嬉野市のふるさと納税支援業務に関しては、返礼品の企画や寄附者への誠意ある態度での対応などをしていただいているが、民間事業者の魅力的で独創的なアイデアや見せ方、行き届いたサービスを發揮していただくことで、本市の寄附額の確保に大いに貢献していただいていると感じられた。独自に作成していただいている冊子「HOT URESHINO」については、返礼品の紹介にとどまらず、嬉野市の広報誌としての効果もあり、ふるさと納税を通じた嬉野市のプロモーションにもつながっていると感じられた。お茶に関する返礼品が少ない点を、産地としてもったいないと指摘されましたが、嬉野市のプロモーションにもつながるという視点を持ちながら、充実した返礼品のメニューを今後も検討していく必要があると感じております。

ふるさと納税制度に対する改善要望として、返礼品の送料の取扱いやふるさと納税支援業務を行う旅行会社が発行する旅行券の取扱いについて問題提起していただきましたが、地方活性化というふるさと納税の趣旨を鑑みると、是正を求める必要があると同感したところがあります。

最後に、ふるさと納税は、地方自治体の財政上、自由度が高く重要な制度であることはもちろんであります。今回の企業訪問を通じて、地場産業の振興と雇用の確保という地方活性化の原点に通ずる非常に重要な制度であると再認識することができました。東京一極集中の弊害として少子化の加速、地方における人口減少が進んでしまっていますが、その打開策の一つとしてふるさと納税の持続的な発展こそが、今後の日本社会には不可欠であると強く感じることができました。

以上で総務企画常任委員会の報告を終わります。

○議長（辻 浩一君）

ただいまの報告に対して質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

特にないようですので、質疑なしと認めます。

これで委員長報告の質疑を終わります。

お諮りいたします。本件についてはただいまの報告のとおり了承したいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、ふるさと納税等については報告のとおり了承することに決定をいたしました。

次に、産業建設常任委員会に付託しておりました調査事件について、委員長に報告を求めます。

産業建設常任委員会の付託事件、有機農業についての報告を求めます。山口虎太郎産業建設常任委員会委員長。

○産業建設常任委員会委員長（山口虎太郎君）

それでは、産業建設常任委員会より報告をいたします。

嬉野市議会議長、辻浩一様。

令和7年2月28日、産業建設常任委員会委員長、山口虎太郎。

令和6年第4回嬉野市議会定例会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則107条の規定により報告する。

付託事件名、有機農業について。

調査理由。農林水産省は、令和3年度に「みどりの食料システム戦略」で2050年までに有機農業が農地に占める比率を25%に高める目標を掲げた。「みどりの戦略」は環境に配慮し、

持続可能な農業を実現するのが目的である。化石燃料を使わない栽培施設や農業機械の開発、農薬の使用量の削減などを打ち出したが、中でも有機農業の推進が抜本的に政策転換と言える。世界的にも、国連が定めた、国連が定めたSDGsで象徴するように環境配慮型の産業への移行が大きくなっている。また、市場においても有機食品への関心が高まり、今後の農業のあり方を研修するために、有機農業に取り組まれている宮崎県綾町の有機農業産業並びに特定非営利活動法人熊本県有機農業研究会を調査研修した。

調査概要といたしまして、有機農業の取組について。

期日は令和7年1月27日。

調査場所は綾町役場会議室及び松井農園研修室。

以下、対応者等については記載しておりますので、御一読ください。

調査内容といたしましても記述しております。

まず、内容的には、有機農産物の販路拡大、農産物の直売所オンラインショップの仕組み等を伺いました。

次に、松井農園さんを研修いたしまして、ここでの有機農業のあり方を研修したところがあります。その中において、我々が聞いてきたのは、今後の展開として、貯蔵及び技術を併用した年間を通じて安定供給できるように取り組む。有機農業の横のつながりがいないため、県内の有機農業者の集まり（勉強会）を開催して技術の向上に努めていきたいという説明を受けました。

私たち委員会の意見としましては、綾町は宮崎県のほぼ中央に位置して、面積95.21平方キロメートル、人口約6,700人の町で、「有機農業の町」及び「照葉樹林都市」として、町おこしの成功例として知られている町であります。

今後、小さな町が農業を生業として生き残るには、有機農業で取り組むことが原点であるとして、昭和63年7月に「綾町自然生態系農業に関する条例」を制定しています。土と農の相関関係の原点を見つめ、「化学肥料、農薬などの合成化学物質の利用を排除すること。」

「本来機能すべき土などの自然生態系を取りもどすこと。」「食の安全と、健康保持、遺伝子毒性を除去する農法を推進すること。」「遺伝子組換え作物の栽培を行わないこと。」を条例で制定し、農業推進を図られた。

有機農業は、土壌微生物の多様性を高め、土壌改良することで、土壌の健康を維持し、作物の病害虫への抵抗力を高め、農家の安全性を高め、持続可能な農業を支える。また、中山間地における農業の生き残りをかける農業政策は、首長の先見性と実行力にあると言える。もともと、条例制定の実際の推進力となったのは、同町における補助金政策（土づくり補助10アール当たり1万円、同町保有による農機具の貸し出し制度）が有機に取り組む追い風となったと有機農業者の感想である。農林水産省の有機農業モデルともなった綾町の取組は、共感を得た、今後さらに取組が各市町に注目されると感じました。

次に、調査概要Ⅱとしまして有機農業の取り組み状況と市場動向、認証制度について研修を行いました。

調査日は翌日、1月28日。

場所は熊本県熊本市東区小山町であります。ここは、農林水産省登録認証機関で特定非営利活動法人熊本県有機農業研究会、対応者は熊本県有機農業研究会事務局長、山口氏であります。

あと、概要といたしまして以下、書いております。

調査内容といたしましては、有機農業の現状、有機食品の市場規模と市場動向、有機栽培への新規就農者への指導及び研修、有機農業のメリットは何か、有機農業の補助金等について伺いました。

以下、委員会の意見といたしまして、熊本県有機農業研究会においては、有機農業栽培のグループ交流、部会交流、新規就農者への希望作物への技術指導体制、受入れ体制、販売加工への指導研究が行われています。長年培われた熊本県有機農業研究会の研究実績と県市町JAの理解ある対応が紹介されました。

認証制度においては、有機JAS（指定圃場）以外に有機栽培が不可能な作物等があり、減農薬栽培（地域指定）等での認証取得（認証番号）の活用、県と連携したシールなどを研究されており、有意義な調査研究でありました。

有機農業は、環境保全、食の安全・安心、農業の持続可能性、消費者のニーズ、政策的な支援など、様々な面から重要性を増しております。今後の市の農業の持続性を考慮するとき、嬉野市においても有機碾茶生産の研修会も行われました。現在の資材高騰や市場価格の低迷の中で、「みどりの食糧システム戦略」の政策を生かして、慣行栽培と有機栽培のどの道を選択していくかを、農家のみならず行政とJA、茶商組合等が手を携えて調査し、戦略を練ることが急務と考えております。

以上、委員会の報告であります。

○議長（辻 浩一君）

ただいまの報告に対して質疑ありませんか。川内聖二議員。

○10番（川内聖二君）

視察のほう、どうもお疲れさまでした。

委員会の意見の綾町の分ですね。まず1つ目なんですけれども、全体的に報告は意見としてされていますけれども、綾町の取組をまたこの委員会の意見のところでも半分以上書かれて、最後に、「農林水産省の有機農業モデルともなった綾町の取組は共感を得た、今後さらに取組が各市町に注目されると感じた」とありますけれども、どのようなことに共感を持たれたか。そして、ここで見てこられた、研修されてきたのを、この当市においてできるか、そのような御意見というのを書かれたほうがよかったんじゃないかなと私は思ったんですけれど

も、ほとんどが取組に関してじゃないかと思いますが、その辺をお伺いします。

○産業建設常任委員会委員長（山口虎太郎君）

綾町は、もう30年来の歴史がありますので、そこに同町と松井農園さんという生産者の方が一緒になって取り組まれて、この事業を推進されております。その中で、実際の圃場を見せてもらいましたし、その作物の作り方とか、今後、水田においてもいろんな新しい技術を、無農薬の栽培の技術を一生懸命努力されておりますし、その研究も成果があったことを報告されましたので、共鳴したところであります。

以上、何かほかにありますか。

○議長（辻 浩一君）

川内聖二議員。

○10番（川内聖二君）

いやいや、私が言いたいのは、そのようなことを視察されてきております、委員会付託として。どのようなところ、そういうのをちょっと意見のほうに書いて、ここを読んでみれば、面積95.2キロ平方メートルとか、こういうのは別として、事業視察されたことの、今おっしゃったことに対して報告するのではないかなと私はちょっと思っているんですけど。

○産業建設常任委員会委員長（山口虎太郎君）

綾町を取組は、同町の政策に対する支援の仕方、それを受け入れる生産者の方々の組織的なグループのつくり方、また、後継者に対する指導の仕方というものが、一貫してここ数十年で取り組まれておりますので、そこは、今まだ取り組まれていない我々のいろんな地域においては参考になったとして勉強してきたわけですけど。ほかに。

○議長（辻 浩一君）

川内聖二議員。

○10番（川内聖二君）

分かりました。それでは、この有機栽培をされる際に、ここの自治体の農政の方々はどうのようにして――まず、皆さんが最初から、こういう有機栽培に、ここの首長さんがいろんな国の事業とかなんとか生かして始められた、その地域が生き残りをかけてと書いてあります。じゃ、最初、どうやって農政の皆様方に有機栽培を行うため、これだけ信頼を得てというか、どのような方法で皆さんが納得して栽培を、この事業をされるようになったのか、最後にお伺いします。

○産業建設常任委員会委員長（山口虎太郎君）

今現在、町長は辞められておりますが、前町長さんが農協長の時代からそういう考え方があって、町長になられて、そこを一緒に支援された松井さんたちの農家が、グループとして今の綾町の有機栽培の体系をつくっておられまして、町長は町長で、世界的な遺産にもなるようなそういう綾町の自然を世界にアピールしていくという仕事もされておりますので、そ

ういう点が、組織として、首長として、トップがそういう引っ張り方を一生懸命やっておられた町であると感じております。

○議長（辻 浩一君）

ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ほかにないようですので、質疑なしと認めます。これで委員長報告の質疑を終わります。

お諮りいたします。本件については、ただいまの報告のとおり了承したいと思えます。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

特にないようですので、異議なしと認めます。よって、有機農業については報告のとおり了承することに決定をいたしました。

次に、議会活性化委員会に付託しておりました調査事件について委員長に報告を求めます。

議会活性化特別委員会の付託事件、議会の活性化を図るための調査研究についての報告を求めます。諸井義人議会活性化特別委員会委員長。

○議会活性化特別委員会委員長（諸井義人君）

議会活性化特別委員会より報告を行います。

令和7年2月28日、嬉野市議会議長、辻浩一様。

議会活性化特別委員会委員長、諸井義人。

令和6年第4回嬉野市議会定例会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則第107条の規定により報告をいたします。

調査の理由。令和6年11月に嬉野市内全7コミュニティを対象に「議員とかたろう会」を4日間かけて行いました。市内全地区を対象に行ったのは久しぶりのことで、区長を中心に役員等においては地区の要望や問題点を多く提案され、多種多様な意見があることも確認できました。今回、大分県の由布市及び佐伯市を訪問し、いろいろな形態の報告会の実態や問題点を把握できました。今後、嬉野市の議会活性化及び議員とかたろう会開催の発展につなげるために調査研究を行ってきました。

調査の概要、議会報告会（議員と語ろう会）について。

調査日時、令和7年1月21日。

場所、大分県由布市役所。

対応者としては、議長以下、数名していただきました。

由布市の概要としてちょっと書いておりますけれども、平成の大合併が進む中、平成17年10月1日、狭間町と庄内町、湯布院町が合併し、由布市が誕生をしております。議員定数としては18名おられます。

由布院温泉を中心に、年間380万人の観光客で大いににぎわっております。当日、由布院

駅に行って私たちも感心したことに、外国人の方がいっぱいおられるということで感心しております。

議会報告会の概要については一読お願いいたします。

3番、委員会の意見。

視察を行った由布市では、本市と同様に議会基本条例の目的が達成されているかを評価及び考察し、市民が議会を通じて市政に反映されるように検証しなければならないとしておられます。検証内容を協議する中、各議員が条例の趣旨及び内容を理解した上で資質向上を図ると確認をしておられます。

議会報告会も本市と同じように行っておられました。内容においては市民の要望ばかりにならないように、ある程度のテーマを中心に意見交換を行っておられました。また、ある団体からの意見交換の要望を受けての実施もされておられました。由布市で合併前の旧町単位で行われていた点では、今回、本市、嬉野市が行ったコミュニティ単位のほうが多くの意見を取り入れられると感じました。

また、初めての開催として紹介された「こども未来議会」の開催は、未来を担う子どもたちが議会の仕組みや政策決定のプロセスを体験することにより、政治や地域社会への関心を高め、子どもたちの視点を取り入れた地域づくりにもつながることで非常によい活動であると感じました。

次、令和7年1月22日、大分県佐伯市役所に行って研修をしてきました。議長以下、多数の参加で大いにいろんな意見を伺ってきました。

佐伯市の概要としては、人口6万5,091人、面積が903.14平方キロメートルで、九州では一番広い市にということでした。ここも平成17年3月3日に旧佐伯市と旧南海部郡の5町3村が合併し、新市政20周年であると聞きました。議員定数は25名でした。

議会報告会の概要としては以下の様ですけれども、一読ください。

3番目、委員会の意見として、佐伯市議会の議会報告会、うちと同じ「議員と語ろう会」は、開催要項を基本に半年前から各班で協議を行い、緻密な計画の下で開催されておりました。

佐伯市が合併により地理的に広範囲にわたっているのと、人口等も多いので、中学校単位の大きなコミュニティ単位となっております。また、大分県内での人口減少率が高い地域であることも考慮に入れ、テーマを設定されておりました。最近は、人口減少問題や消防団員不足、学校給食費無償化をテーマにして開催されておりました。

佐伯市の「議員と語ろう会」は、平日ではなく土曜日と日曜日に開催されておりました。開催日については、本市においても今後研究をしていかなければいけない課題であると感じました。また、女性の参加者が少ないことも課題として言われました。女性や若者の参加については、本市においても今後の課題として捉え、広く市民の声を受け入れて、市政に生か

す研究をする必要があると感じました。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

ただいまの報告に対して質疑ありませんか。増田朝子議員。

○11番（増田朝子君）

2点ほど質問させていただきます。

まず両市、由布市と佐伯市、佐伯市においては、課題とか、女性の参加が少ないとかとありますけれども、もう少し具体的に、両市議会の語ろう会の課題が、質疑があったかどうかということをお尋ねしたい。

あと、その語ろう会をされた後の取りまとめとか、あと公表は、佐伯市では市報で市民の方に公表するとありますけれども、その取りまとめの仕方、あと公表の仕方とか、具体的にあらればお願いします。

○議会活性化特別委員会委員長（諸井義人君）

1点目の課題等については、両市とも同じように議員と語ろう会をする中で、今までのマンネリ化を防ぐためにいろんな改革をして、自分たちなりの市に合った議会報告会をしたいということで取り組まれておりました。特に由布市においては、意見交換会の2番目のほうに挙げておるように、由布市女性団体連絡協議会というふうな団体がおられまして、そういう団体との意見交換も行ったということでした。

また、若い人たちとの意見交換という形で小学生と意見交換。そういう形を取り入れているということで、うちよりちょっと進んだというわけじゃないけれども、市独自のいろんな課題について捉えておられました。

次、佐伯市においては、佐伯市の準備は、うちが昨年4日間行うということで、嬉野市の私たちの活性化の中でもかなり議論をして、準備をしていったつもりでありましたけれども、佐伯市のホームページ等で見たときに、何と多項目にわたっているような議論をされているのかなというふうな感じを受けたので、佐伯市を今回訪問の市として選んで行かせてもらいました。

確かに、議員の数も多いですけども、最初に感じたとおりに、いろんな意見を吸収するために前段からの取組が非常に大切だなと。半年前から議会として語ろう会をするために取り組んでおられるということは非常に大切なことかなと。私たちも、議員と語ろう会をするなら、思いつきみたいなことではやらないで計画的にやるということが大切だなと感じました。

後の、2番目の質問にあった報告についてですけども、由布市においては報告会の後をどうされているかについては、そこまで詳しくは聞かなかったけれども、時間を制約上、ちょっと聞けなかった部分がありますけれども、佐伯市については、先ほど増田議員が言われたようにホームページにもっと詳しく、小さな文字になっていますけれども、詳しく説明

というかな、報告をされております。そこまでする必要があのかなというくらい感じておりました。

本市でも今回、4日間受けた質問に対しても、ある程度執行部のほうに返答をお願いして、今回、市議会のホームページに載せておりますように、ある程度詳しく載せているつもりでありますので、佐伯市まではいかないけれども、ある程度、本市においても後のほうの取組としては佐伯市を参考にしてよかったかなと思っている次第です。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

増田朝子議員。

○11番（増田朝子君）

ありがとうございます。

それと、佐伯市においては土日開催ということですが、土日開催に至った経緯とかは、調査の中でありましたでしょうか。

○議会活性化特別委員会委員長（諸井義人君）

やはり大きなまちです、うちよりも。6万人おるまちで、かなり大きなまちですので、日中働いている人たちを寄せるということは非常に難しいと。だったらば、議会でも夜議会とかなんとかやっているところがあるように、議員と語ろう会ぐらいは土日に、議員が土日を使って、土日に行ったほうが参加者が多くなるだろうということで土日に取組まれたということ聞いております。ここについては、私たち嬉野市議会としても、土日の開催も含めて検討すべきかなというふう感じたというところでは。

以上です。

○議長（辻 浩一君）

いいですか。ほかに。宮崎良平議員。

○9番（宮崎良平君）

御苦労さまでした。由布市の件で聞きたいんですけど、由布市の中で、最後には子ども未来議会の開催というのが書いてあったと思うんですけど、これに関して、嬉野市としても商工会主催のドリームハンズで子ども議会をしておりました。これは自負ではないんですけど、嬉野市商工会は本当にしっかりやっておまして、ちゃんと議案もつくって、そして市長も副市長等も、あと部長たちも多分参加されてやられたようなしっかりとした議会でした。それと比べて、この子ども未来議会はどのような形でやられているのかというのが分かれば教えていただきたいと思います。

○議会活性化特別委員会委員長（諸井義人君）

詳しくはちょっとそこまで聞いていない、時間の制約上聞けなかったけれども、子ども未来議会は嬉野市も商工会が数年前から行って、非常にいい取組だと私も感じています。

ただ、この由布市においては、商工会じゃなくて、自分たちから子ども議会をしようと議会の中で話になって行ったというようなことを聞いております。議会活性化の中での取組の一つとしてされて、私たちのほうもそういうふうにするものかなという形で、あと私たちの受けた課題だと思っています。（「分かりました」と呼ぶ者あり）

○議長（辻 浩一君）

ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

特にないようですので、質疑なしと認めます。これで委員長報告の質疑を終わります。

お諮りいたします。本件についてはただいまの報告のとおり了承したいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、議会の活性化を図るための調査研究については、報告のとおり了承することに決定をいたしました。

次に、議会ICT化の推進に係る特別委員会に付託しておりました調査事件について、委員長に報告を求めます。

議会ICT化の推進に係る特別委員会の付託事件、議会ICT化の推進に係る調査研究についての報告を求めます。山口卓也議会ICT化の推進に係る特別委員会委員長。

○議会ICT化の推進に係る特別委員会委員長（山口卓也君）

それでは、議会ICT化の推進に係る特別委員会の報告を行います。

嬉野市議会議長、辻浩一様。

議会ICT化の推進に係る特別委員会委員長、山口卓也です。

令和6年第4回嬉野市議会定例会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則107条の規定により報告いたします。

付託事件名、議会ICT化の推進に係る調査研究。

調査理由、嬉野市議会ICT推進基本計画における計画事業の一つに、市民との情報共有の拡充を図る目的として「一般質問時のプレゼンテーションツールの利用」を掲げております。そこで、先進地であります流山市議会におけるプレゼンテーションツールの運用状況等を調査研究しました。また、情報共有システム「MetaMoJi Share」について、操作性や有用性を実際に操作し確認するため、株式会社MetaMoJiを訪れ調査研究を行っております。

調査概要のIとして、先進地視察、ICTを活用した議会運営について。

調査日、令和7年1月8日。

調査場所は千葉県流山市議会。

対応者は流山市議会議長ほか3名です。

調査の内容としましては、流山市議会は平成23年11月に一般質問時におけるプレゼンター

ションツールの活用を開始されております。また、令和6年2月には執行部側でも同様の活用を開始されております。プレゼンテーションツールを活用した一般質問の状況など、流山市議会におけるICTを活用した議会運営の状況を調査しております。

調査の内容について見出しを申し上げます。中身については御一読願います。

1、流山市議会ICT推進協計画について、2、一般質問時におけるプレゼンテーションツールの活用について、(1)運営に当たっての議場等の環境、(2)補助資料の位置づけ、取扱い等、(3)補助資料を用いて一般質問を行う際の留意点、(4)使用が禁止されている補助資料、(5)プレゼンテーションツールの活用状況についてです。

次に3、その他の議会ICT化等の状況について調査を行っております。(1)事業展開における財政措置、(2)議会におけるペーパーレス化及び情報共有システムの活用等、(3)発言通告書の提出の方法等、(4)その他の実施事業についてです。

次に、調査概要Ⅱとして、情報共有システム「MetaMoJi share」について申し上げます。

調査日、令和7年1月9日。

調査場所は、東京都港区にある株式会社MetaMoJi本社です。

対応者は、法人第2営業部の城山様です。

調査の内容としては、令和6年2月に本委員会にて視察した熊本県御船町議会で使用されている情報共有システム「MetaMoJi share」について操作性や有用性を確認するため、実際に体験しながらシステムの調査を行っております。

見出しのみ、調査内容を申し上げます。

1、会社概要、2、「MetaMoJi share」の概要、3、「moreNOTE」と比較して同等、又は便利と感じられた点、4、「MetaMoJi share」にアップグレードしてほしい点、5、「MetaMoJi share」のセキュリティについて、6、「MetaMoJi share」のコストについて調査を行っております。

最後に、委員会の意見を申し上げます。

流山市議会では、平成23年から一般質問におけるプレゼンテーションツールの活用が開始されており、現在では何の違和感もなく、ごく一般的に運用されているとのことであった。実際の活用シーンを映像で見せていただいたが、資料を補助的に用いながら発言することで、質問内容の理解が容易となり、議論をより深める効果が期待できる。

本市議会でも今後の活用を視野に入れ、まずは補助資料の位置づけ・取扱い等や活用する際の留意点などを定める取扱要領等を策定していきたい。特に協議を要する事項としては、補助資料を会議録に正式資料として保存していくか否かという点でございますが、現時点では、あくまで補助資料として活用するものであることから、正式な資料としての保存は必要ないのではないかと考えております。

そして、新庁舎の議場ができる前にも、現在の議場でできる範囲で、テレビモニターを活

用してスタートするなど、少しずつからでも試行錯誤を重ねていきたい。一般質問におけるプレゼンテーションツールの活用は、議論における意思疎通の向上のみならず、市民との情報共有の拡充に寄与することができるため、本市議会での導入を目指して検討を進めていきたいと考えております。

次に、情報共有システムである「MetaMoJi share」は、「moreNOTE」と比較して同等、または便利と感じられた点も多く、操作もしやすいシステムであると評価できる。特に有用と感じられた点は、資料共有モードでのメモ機能の同時入力・共有が可能であるという点であります。この機能を用いますと、議会広報の編集作業での手間を大幅に省くことが可能になるとともに、リモートでの作業も可能になり、より効率的な編集作業が実現できます。そのほか、細々としたところも利用者目線での操作性が追求されており、利用しやすいシステムと感じられております。難点としては、カレンダー機能がない点やシェアモード、これは文書等を共有して閲覧するモードと、プライベートモード、文書等を個人ファイルとして閲覧するモード、この切替えに係る一手間がある点でございます。導入にかかるコストやストレージ容量については、現在と比べても割安感があり、予算的な制約はないものと考えます。現時点でシステムの変更を急いでいるわけではございませんが、今後の選択肢の一つとして候補になり得るシステムを調査できた有意義な視察研究でありました。

以上でICT化の推進に係る特別委員会の報告を終わります。

○議長（辻 浩一君）

ただいまの報告に対して質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

特にないようですので、質疑なしと認めます。これで委員長報告の質疑を終わります。

お諮りいたします。本件についてはただいまの報告のとおり了承したいと思っております。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、議会ICT化の推進に係る調査研究については報告のとおり了承することに決定をいたしました。

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。

午前11時21分 散会